1. 評 価 結 果 概 要 表

作成日　22　年　4　月　20　日

[評価実施概要]

事業所番号	1890500059
法人名	社会福祉法人　光明寺福祉会
事業所名	グループホーム一乗ハイム
所在地	大野市明倫町６－８ (電話)　0779-65-7132

評価機関名	社会福祉法人　福井県社会福祉協議会		
所在地	福井県福井市光陽2丁目3-22		
訪問調査日	平成22年2月10日	評価確定日	平成22年4月20日

[情報提供票より]　(　22　年　1　月　1　日　事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成　21　年　3　月　25　日			
ユニット数	1　ユニット	利用定員数計	9　人	
職員数	8　人	常勤　6　人、	非常勤　2　人、	常勤換算　4.9　人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨耐火　造り
	3　階建ての　1　～　3　階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000　円		その他の経費(月額)	実費　円
敷金	有　(　円)			○無
保証金の有無 (入居一時金含む)	有　(　円) ○無		有りの場合 償却の有無	有　/　無
食材料費	朝食	199　円	昼食	324　円
	夕食	298　円	おやつ	100　円
	または1日当たり			円

(4)利用者の概要

利用者数	9　名	男性	2　名	女性	7　名
要介護1	2		要介護2	6	
要介護3	1		要介護4	0	
要介護5	0		要支援2	0	
年齢	平均　83.5　歳	最低	76　歳	最高	89　歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	渡辺医院・山崎歯科

[外部評価で確認されたこの事業所の特徴]

伝統ある越前大野城や七間朝市からも近く、両隣が飲食店で大野二番通りの街中に鉄骨耐火造りの3階建ての建物が当ホームである。認知症になっても地域の中で、いきいきと暮らせるようにとの理事長の思いで建てられたホームである。
1階は共有空間としてワンフロアのリビングがあり、入居者が居心地よく過ごせるようにソファ・季節の花などが置かれ、入居者の作った作品・スナップ写真なども掲示してあり、いきいきと過ごしている様子がうかがえた。2階は居室で10mほどある廊下には手すりが取り付けられ歩行訓練を行ったり、設置されたソファーでくつろぐこともできる。また、ホームの屋上からは大野市の自然あふれる風景が一望でき、季節ごとにバーベキューなどの行事も楽しむことができる。
ホームから一歩外に出ると街中の賑わいが肌に感じられ、入居者は昔から通っていた店などに気軽に行くことができ、馴染みの関係を継続している。
平成２２年４月には隣接地に同法人が高齢者賃貸マンションを開設する予定である。医療連携体制も図られ重度化や終末期への支援も可能であり、地域住民の介護を支える拠点となるよう、今後自治会等を通じ当ホームについて理解を得る取り組みについても期待したい。

[重点項目への取組状況]

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	今回が初めての外部評価の受審である。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回が初めての自己評価であったが、管理者は職員に自己評価票を渡し1か月間でそれぞれが評価したものをまとめあげている。 自己評価は管理者・職員が項目ごとに話し合い、日頃のケアや現状を把握することで気づきになり、さらなるサービスの向上につながるので、今後ミーティングなどの機会を利用して、取り組まれることを期待したい。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目：外部4,5,6)
	運営推進会議は、2か月に1回入居者代表・家族代表・市担当課係長・住民代表・民生委員・同法人理事長・同法人系列グループホーム管理者などが参加し開催している。 会議ではホームの活動や現状報告を行い、各委員から助言や要望をもらっている。委員からの助言や要望については、できるだけ迅速に対応し運営に活かしている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8)
	家族の面会時は、口頭で入居者の現状を報告し、金銭管理についても確認してもらっている。また、行事やホームでの様子の写真を掲載した広報紙「一乗ハイムだより」を毎月送付している。 職員が日ごろから気軽に意見や苦情を話してもらえるような雰囲気づくりに心がけており、年1回開催する家族会でも聴くようにしている。この他、リビングに意見箱も設置している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	職員がごみ収集後の後片付けに協力したり、公民館にパンフレットを置きホームの広報活動を行っている。また、入居者と職員が近隣の商工会議所の行事に参加したり、子供みこしを見学に行くなど、地域との交流を図っている。 今後は、自治会・老人会・ボランティアグループなどを通じて、地域密着型グループホームを理解してもらえるような取り組みについても期待したい。

2．評　価　結　果　（詳細）

※ ■は、重点項目。

外部評価№	自己評価№	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
		Ⅰ　理念に基づく運営　　**1　理念の共有**			
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「生きがい・自立」「一人一人を大切に」「五感の刺激を大切に」「笑いが絶えないやうち」「地域に開かれたホーム」の職員でつくりあげた理念をリビングに掲示し、理念のひとつである「笑いの絶えないやうち（家内）」はホームの玄関に掲げ、職員のモットーとしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は、毎月の勉強会で理念に基づいたケアができているか話しあったり、笑顔で入居者にサービスを提供できたか振り返るよう心がけている。		
		2　地域との支えあい			
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	職員がごみ収集後の後片付けに協力したり、公民館にパンフレットを置きホームの広報活動を行っている。また、入居者と職員が市や近隣の商工会議所の行事に参加したり、子供みこしを見学に行くなど、地域との交流を図っている。	○	今後は、自治会・老人会・ボランティアグループなどを通じて、地域密着型グループホームを理解してもらえるような取り組みについても期待したい。
		3　理念を実践するための制度の理解と活用			
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回が初めての自己評価であったが、管理者は職員に自己評価票を渡し1か月間でそれぞれが評価したものをまとめあげている。	○	自己評価は管理者・職員が項目ごとに話し合い、日頃のケアや現状を把握することで気づきになり、さらなるサービスの向上につながるので、今後もミーティングなどの機会を利用して、取り組まれることを期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2か月に1回入居者代表・家族代表・市担当課係長・住民代表・民生委員・同法人理事長・同法人系列グループホーム管理者などが参加し開催している。会議ではホームの活動や現状報告を行い、各委員から助言や要望をもらっている。委員からの助言や要望については、できるだけ迅速に対応し運営に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の介護相談員を受け入れたり、市担当者にホームの運営について相談し助言をもらうなど、連携を図っている。		
		4　理念を実践するための体制			
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時は、口頭で入居者の現状を報告し、金銭管理についても確認してもらっている。また、行事やホームでの様子の写真を掲載した広報紙「一乗ハイムだより」を毎月送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員が日ごろから気軽に意見や苦情を話してもらえるような雰囲気づくりに心がけており、年1回開催する家族会でも聴くようにしている。この他、リビングに意見箱も設置している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設1年未満ということもあり、運営が軌道に乗るまでは異動を行わないように考えているが、やむを得ず異動を行う際は、入居者に影響を与えないよう、馴染みの関係を引き継げるように配慮する方針である。		

外部評価№	自己評価№	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		5　人材の育成と支援			
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部・外部を問わず研修については、案内を回覧し参加できるように配慮しているが、職員が自身で必要と思う研修は勤務時間外に自主的に参加している。	○	勤務時間帯に必要な研修が順次受講できるような研修計画を作成するよう期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、運営母体の各サービスの管理者と情報交換をしているが、職員間の交流などは比較的少ない。	○	お互いが抱えている問題を一緒に考えたり、地域密着型グループホームとしてのサービスのあり方について見識を深めることができるよう、職員が同業者と交流できる機会を設けることを期待したい。
		Ⅱ　安心と信頼に向けた関係づくりと支援　　**1　相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応**			
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居の希望があった際には、担当の介護支援専門員が本人・家族の要望などを聴き、ホームの見学や体験利用をしてもらい、納得の上で入居してもらうようにしている。		
		2　新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、入居者から昔の話を聞いたり、歌を教えてもらったり、ピーナツ等のすりこみを一緒に行うなど、お互いに支えあう関係を築いている。		
		Ⅲ　その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント　　**1　一人ひとりの把握**			
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや意向は、入居前の介護支援専門員からの情報や入居後の日々の生活の関わりの中から把握している。 現在は、入居者の多くが自分の意思表示をできる方が多いので、できる限り希望に沿って支援している。		
		2　本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の希望を聴き、アセスメント（援助活動を行う前に行われる評価）により、状態を把握をしながら、全職員で本人本位の介護計画を作成し、共有している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月の勉強会でモニタリング（介護計画に照らしたサービス実施状況と本人の状況把握）した結果を基に、介護計画を見直している。また、本人に急な状態変化があった時は、臨機応変に計画を見直している。		
		3　多機能性を活かした柔軟な支援			
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	運営母体の訪問看護師による週2回の健康状態・体調の把握、毎月1回協力医による往診、月2回音楽療法を行っている。また、介護状態の重度化により、要望があれば法人内の介護老人保健施設へ移ることも可能である。		

外部評価№	自己評価№	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		4　本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的にかかりつけ医での受診を支援しており、家族に同行してもらっているが、都合で行けない場合は職員が同行している。かかりつけ医との連携を大切にしており、受診結果の病状把握などの連絡体制もできている。 急変時は家族に連絡し、看護師が病院へ同行している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合における看取りの指針を作成しており、契約時に家族に説明し、同意をもらっている。 日ごろからかかりつけ医と連絡を密に行っており、状態の変化があった時には関係者で協議し、支援する体制ができている。		
		Ⅳ　その人らしい暮らしを続けるための日々の支援　　**1　その人らしい暮らしの支援　(1) 一人ひとりの尊重**			
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	オムツ等の交換に際しては本人の排泄パターンを把握し、トイレへの声かけをさりげなく行っている。 個人情報保護に関するマニュアルも作成されている。	○	個人ファイルが入居者が座っているテーブルに置かれ、その場所で職員が記入している。個人情報の保護のため、保管場所や記録場所の工夫についても期待したい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	午前に体操や歌などのレクレーション、午後には口腔体操や踊りなどのレクリエーションを基本的に全員で行っているが、本人の希望で別のことをしている入居者もいる。		
		(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員はメニューを考える時に、入居者から食べたい物を聴き取り入れるように心がけ、誕生日には本人の希望のメニューにしている。入居者にもできることを手伝ってもらいながら準備し、入居者と職員が同じテーブルで同じ食事をとっている。 訪問調査時、地元の食材の話をしながら暖かい雰囲気の中で食事を楽しんでいる様子がうかがえた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週に3回午後から入浴でき、浴槽は2人で入浴することができる広さで手すりも設置されている。リフトチェアでの入浴も可能である。 また、季節に応じて、菖蒲湯やゆず湯などに入ることもできる。	○	利用者のこれまでの生活習慣やその日の希望で、気軽に入浴ができるような取り組み (例えば、足浴やシャワー浴など)についても期待したい。
		(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者が得意なことで役割をもってもらい、楽しみや気晴らしとなるよう支援している。 裁縫の得意な入居者が作ったのれんや座布団が使われていたり、料理の得意な方には下ごしらえの準備を手伝っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームは市の中心部にあり、本人の希望で図書館や買い物などに日常的な散歩を兼ねて外出している。 また、普段行けない遠方へは希望を聞き、月に1～2回外出している。		
		(4) 安心と安全を支える支援			
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけることの弊害を理解しており、日中は鍵をかけていない。 入居者を見守りながら外出しようとする方には、さりげなく声かけしたり、一緒に散歩に出かけている。		

外部評価№	自己評価№	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急時における連絡体制は確立しているが、災害等における避難訓練等は今のところ実施していない。	○	ホームは市の中心部の店舗や住宅の密接した中にあることから、消防署の協力の下、災害時などに入居者が安全に避難できるよう早期に訓練の実施を期待したい。また、運営推進会議などを通じ、災害時における地域住民の協力の呼びかけも期待したい。
		(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面への支援			
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	調理師が利用者の希望を取り入れた献立を作成している。 水分については定期的に確保できるよう配慮しているが、摂取量が少ない方には、好みの飲み物で摂ってもらえるようにしている。	○	入居者が栄養バランスを適切に確保できているか把握するため、定期的に献立を運営母体の管理栄養士にチェックしてもらうことも期待したい。また、食事摂取表に水分の摂取状況も記録するよう期待したい。
		2　その人らしい暮らしを支える生活環境づくり　(1) 居心地のよい環境づくり			
29	81	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間 (玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等) は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	1階にワンフロアーのリビングがあり、食卓が置かれ、冬期間は床暖房となっている。リビングには花や利用者の作品やスナップ写真等を飾ってあり、また、ソファが何箇所も配置されおり居心地良く過ごせるように配慮されている。また、2階には職員との談話室もある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は2階で、室内には入居者の馴染んだ整理ダンス・小物・仏壇等が持ち込まれ、各入居者の特色のある居室となっている。また、居室内のカーテンは防炎加工で安全面にも配慮されている。		

グループホーム一乗ハイム（認知症対応型共同生活介護事業所）

自　己　評　価　票

■は、外部評価との共通項目。

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	Ⅰ　理念に基づく運営　　**1　理念の共有**			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	基本理念の中の「笑いが絶えないやうち」という言葉をモットーに職員が日々努力している。	○	地域の中に於いてまだ認められていない事が多くあり、少しずつ出来る事から実行していく事によって、信頼を作り認められるような方向にもっていくように努力していきたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	入居者家族から信頼されるホームを目指して日々努力すると共に、時折振り返えりつつ適切なケアが行なわれているか確認しあうようにしている。「笑顔を絶やさない」をモットーに、今日も一日笑顔で勤務できたか振り返るようにしている。		「笑いが絶えないやうち」という理念に基づいてホーム内はいつも笑いの絶えないホームでいられるようこれからも日々努力していきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	職員に対して、常に家族や地域とのふれあいやコミニュケーションが一番大切である事を常に話をしている。お互いに隣近所の方々と助けあいができるようなつきあいをしていきたい。	○	開設して日も浅いので地域の皆様に「一乗ハイム」が地域にあることを「運営推進会議」を通して少しずつ認めて頂けるよう努力していく。ハイム便りなど町内に回覧したり、地域に出て交流を通してこれからも努力していきたい。
	2　地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩に行った時などに近所の方に会ったときは、挨拶や立ち話が気軽に出来るよう積極的に声を掛けるようにしている。 ごみステーションの後片付け、清掃は地域活動の一環として積極的に取り組んでいる。	○	入居前の近所の方や友人が遊びに来て下さるので、お互いに情報を交換したり、いつでも遊びに来ていただけるようなオープンな環境作りにこれからも努力していきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	市で企画される催しには、参加をして地元の人々と交流を持つようにしている。	○	町内で行なわれる行事等に参加ができるように働きかけていきたい。
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	福祉相談委員の受け入れを行なっている	○	ボランティアの受け入れを行なっていきたい。
	3　理念を実践するための制度の理解と活用			
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を行ない改善できるところを見つけ、より良いホームになるように努力している。	○	これからも、自己評価を行ない改善できるところを見つけ、より良いホームになるように努力していきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進委員会議を利用し、意見交換を行なうことで、より良いホームになる為に新しい取り組みが出来るよう意見をいただき、その中のできる事から取り組む努力をしている。	○	開設して日も浅いので地域の皆様に「一乗ハイム」が地域にあることを「運営推進会議」を通して認めて頂けるよう努力していく。

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市で行なわれる講習会やケアマネー会議などへの参加を通して、市担当者との連携がスムーズに取れるよう努力する。　　毎月のホームたより配布、介護相談員の受け入れなどをしている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護や成年後見制度については、講習会・勉強会に参加していきたい。	○	講習会が開催されたら、必ず参加をして職員一同が把握できるようにしていきたい。家族などから相談を受けたときには、このような事業があることなどの説明を出来るようにしていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止推進研修会に毎年参加するようにしたい。事業所内での虐待などがないように、常に話し合い、実践を心がけている。	○	身体拘束とは何かについて理解を深め、事業所内での虐待などがないように、常に話し合い、実践を心がけていきたい。
	4　理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、常に不安点、疑問点には、十分な説明ができるようゆとりを持った対応を心掛けている。理解、納得してもらえるように努力している。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見・不満・苦情等の訴えがある時には、訴えをゆっくりと聞けるような時間を持つようにして、職員間で話し合い利用者により良い生活が送れるように努力している。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時には、常に現在の状態を必ず報告している。金銭管理は、責任者が行なっており,その都度家族に目を通してもらえるように努力している。「ハイム」便りを発行している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置,苦情処理委員会の設置、外部の相談場所等の掲示を行なっている。家族の皆さんとは、何でも話せるような関係作りを実践している。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	最低月１回話し合える時間を確保している。必要時には、その都度会議を開くことで意見の交換ができるようにしている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	行事等を行なう時には、事前に職員会議等に職員全員で行事を検討し、ゆとりをもった対応ができるように職員の確保に努めている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設間もない事もあり、現在のところ職員の移動はない。	○	馴染みの関係が大切である事を常に働きかけていきたい。職員の移動が必要なときには、ダメージが最小限となるよう努力していきたい。

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	5　人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外で行なわれる研修会には、なるだけ参加できるように回覧したり、希望あれば参加できるよう勤務体制について,配慮している。仕事上必要な資格については、積極的に取得するよう話している。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	常に話をしている。年1回行なわれる施設スポーツ大会への参加や、交流会への参加を行なっている。地域で行なわれる勉強会に出来るだけ参加して行けるようにし、他の施設との交流を持つようにしていきたい。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員間で常に話し合いを持つようにし、当日勤務者同士休憩がとれるように声を掛け合う事で、ある程度ストレス軽減ができるようにしている。法人内の親睦会に参加し（2～3ヶ月に1回）交流していきたい。	○	法人内の親睦会以外に職員が交流できる場を作っていきたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	研修レポートの提出勤務態度、勤務状況を考慮した昇給が行なわれる。資格の所得に応じた資格手当てが支給されている。		
	Ⅱ　安心と信頼に向けた関係づくりと支援　　**1　相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応**			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所申し込み時点で、必ず見学や体験をしていただくようにしている。家族からの要望、本人の要望訴えを伺うように努力している。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人が見学や体験をする前に担当ケアマネジャーからの個人の情報を踏まえて家族の不安・希望・訴えを求めている事など伺うように努力している。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が必要としている支援を見極めて、職員間で話し合いホームで支援していくことができる事、出来ない事を見極める共に家族の協力や本人の理解、納得のもとに最大限の努力、支援を行なえるよう職員で対応できるように努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族等と話し合いながら、外泊したり、外出（家に連れて帰ってもらう事もあります）をしつつ、ホームに慣れていただけるよう努力している。入居前の馴染みの友達、近所の方々が遊びに来ていただくことも大切にしている。		
	2　新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居されている方々の、出来る事・得意な事を教えていただきつつ、支えあえる関係を築いていきたい。	○	昔ながらの「知恵」を大切にした行事を行なっていきたい。

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時や家族会でも家族の皆様の協力なしでは、本人の生活やホームが成り立っていかない事を常に話すと共に家族とも遠慮しないで話し合っていける関係を作るように努力している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	定期的な面会（外出・外泊含む）や通院介助などを通して今までの関係が続けられるよう常に話している。職員が間に入る事によって関係の維持が出来るように援助している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	月に数回外出する機会を利用し、いつも行っていたマーケットや店屋等へ出掛けて、馴染みの場所の関係が途切れないよう支援している。馴染みの人が進んでホームに来ていただけるよう、職員も笑顔で対応するよう心掛けている。	○	入居間もない時期は、家族と相談して面会の回数を増やす。外出する機会を増やす。定期的に外泊するなど本人の状態に応じた支援が出来るよう家族と相談しながら工夫している。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士が協力する場面を作ったり常に支え合う事の大切さを話したり、同じ方とばかり過ごさず誰とでも仲良く過ごせるような関係が作れるように、職員が間に入りきっかけを作るように努力している。	○	個人的に攻撃する方が見られるので、両方が折り合いをつけることが出来、良い関係を気づけるよう援助していきたい。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	ホームから退所された方やその家族の方々とは今でも挨拶をするなどして、積極的に声を掛けるようにしている。		
	Ⅲ　その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント　　**1　一人ひとりの把握**			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思っている暮らしが継続出来るように、本人の希望を踏まえたケアプランを作るようにしている。本人本位のプランが作れるよう職員間で話し合っている	○	各職員に共通しているのは、肌で感じたり、口では、表現出来るが文章に表す事が出来ないことである。其のためせっかくあるセンター方式が上手く活用できていないので、センター方式をもっと活かせるようにしていきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、担当ケアマネージャーとなるだけ話をすることで把握できるように努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人一人の現在の状態を把握し、本人ができる事、出来ない事を見つけるように努力している。		
	2　本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の希望を取り入れるようにしている。職員間では、定期的に意見やアイディアを交換し合い、それらが反映していけるように努力している。	○	利用者本位の介護計画を作成するようにしているが、作成するだけに止まらず、反映していけるようこれからも努力していきたい。

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	本人の状態変化が見られた時には、状態を見極めそれぞれがすぐに話し合うことで、新しい計画書を作成するようにしている。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人個人の状態がわかるような記録をつけ（個人カルテ）職員間で話し合い情報の共有に努め、介護計画の見直しに活かせるように努力している。	○	モニタリングを行う事で、職員全員が早期に変化を見つけることができるようにしていく。入居者の変化にあった、適切な計画の見直しが出来るようにしていきたい。
	3　多機能性を活かした柔軟な支援			
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状態に応じ柔軟な対応が出来るように努めている。主治医の指示のもとに食事療法や早期退院、自宅（ホーム内）の療養等が出来るよう支援出来るよう努めている。		
	4　本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域資源との協働に対しては、まだ支援が出来ていないと思うが、地域で行う文化行事、ボランティアの踊りや発表会などの見学は、希望に応じて行うように努力している。福祉相談員の受け入れを行っている。	○	必要に応じた地域資源を見つけ本人の意向や必要に応じた支援を行なっていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	軽費老人ホーム、他のグループホーム、入所施設（ユニットケア含む）、通所施設との交流が行えるように調整をし、交流会を行うように努める。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	大野市の福祉課包括支援センターとの連絡を密にするようにしている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との関係を保つようにしている。必要時には、往診等の対応をしていただけるように病院との関係を大切にしている。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医の（月１回）往診を利用し、普段の状態の報告と、症状に応じた介護相談など、状態に応じた相談ができるようになっている。	○	認知症によるBPSDに対する問題点を見つけ適切な対応ができる為の講習会や事例検討会などに参加したり、ホーム内での処遇検討会で話し合いの場を設ける事により症状の緩和や訴えに耳を傾ける姿勢を身に付けていきたい。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問看護師との連絡を密にし、２４時間３６５日の対応を行っている。週2回の日常の健康管理、健康状態の相談を行っている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	医療機関や家庭との情報交換を行うことで、受け入れ体制を整え、早期退院ができるようにしている。訪問看護師との連携も行っている。		

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末ケアを行なえるよう訪問看護ステーションとの契約を行なっている。状態の変化に応じその都度家族、訪問看護師、かかりつけの主治医と話し合いを行い、以後の方針について検討するようにしている。	○	ホーム内で何が出来るのか、何が出来ないのかを見極めたり、「終末ケアとは何か」を理解する為にも、積極的に講習会や情報交換会に参加して行きたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	終末期のケアが出来る事、出来ない事などを踏まえ訪問看護師とかかりつけ医と連携し、家族と相談しながら重度化にならないように早期治療に努めていきたい。	○	終末ケアの実践がないので、職員としての心構えなどを講習会や意見交換会に参加することで習得していきたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	グループホームを退所して移り住むにあたり、担当ケアマネージャー施設指導員、医療機関ソーシャルワーカーとの情報交換を密に行いケアが継続して行っていけるように努める。		
	Ⅳ　その人らしい暮らしを続けるための日々の支援　　**1　その人らしい暮らしの支援　(1) 一人ひとりの尊重**			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	声掛けや個人対応時には、プライバシーの確保を行うように心掛けている。個人情報の保護に努めている。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	本人と話しをすることで希望、要望を聞き自分で納得して決める事を大切にしている。	○	これからも自分で決める事のできない利用者に対しては、簡単な選択ができるような声掛けを行なっていきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを大切にした対応を心掛けている。散歩に行きたい方、手芸・ぬりえ・本読みをしたい方等希望に添って支援出来るように心掛けている。		
	(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理容・美容は、本人の馴染みの店を家族に協力を得ながら利用されている。買い物時には、洋服売り場へも立ち寄るよう心掛けている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	温かい物、冷たい物の提供、お誕生会の希望献立、季節の食材料を使った献立・メニューを考える時には食べたい物を各自から聞き取り入れる等心掛け、一人一人が出来る事を手伝いながら食事の準備や片付けを行っている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	行事に合わせてお酒を提供する事もある。飲み物に関しては一人一人の希望を聞き好みの飲み物を提供するよう配慮している。おやつは買い物時に好みのものを購入していただくようにしている。		

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	昼、夜一人一人の排泄パターンを把握して誘導（声掛け）するように心掛けている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴順番や仲の良い方との入浴をしていただくなど希望を聞いて入浴出来るようしている。「菖蒲湯」「ゆず湯」等、季節に応じた入浴方法を取り入れている。	○	夏季には、入居者の希望に合わせて午後にシャワー浴が出来るよう配慮していく。 入浴拒否をする方がいた場合などの対応について、職員間で検討会を開きスムーズな対応ができるようにしていきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人一人に応じて休まれる時間を持ち夕食後には、談話室にて職員と一緒にTVを観たり話をしたりして、過ごしている。ゆっくりと休めるよう布団を干したりして支援している。	○	冬季間には、個人的に（血行不良、冷え症など）足浴などを行いゆっくり休んでいただけるよう支援していきたい
	(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人一人が出来ることの中で係りを持ち達成することで喜びを感じたり、喜びのある日々が過ごせるような行事を組み、楽しみや気晴らしいに支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理が出来る方に関しては、自己管理が出来るように支援しており、買い物等に出た時には、手持ちの中から支払って戴くようにしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	家族の協力を得ながら出掛けたい場所に行く事が出来るように支援している。天気の良い日には、歩いて図書館、買い物に誘って外出している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	1ケ月に1～2回は、外出を行っている。市内で行なわれる催し物には、随時出掛けている。希望に応じた場所へ行けるように支援している。	○	日帰り温泉なども計画していきたいです。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人的に携帯電話を持っている方もおられる。ホームの電話も希望に沿って使ってもらえるようにしている。文通（家族、友人）をしている方に対しては、郵便局まで手紙を出しに行くなど継続した交流が出来るよう支援をしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族、知人、親戚の方々が面会時ゆっくとして行って下さっている。他の入居者の方共談笑されている事もあります。職員も笑顔で受け入れられるよう努めている。		

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	(4) 安心と安全を支える支援			
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議や介護時などお互いに声を掛け合い拘束する事がないように工夫をしている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関や各居室には、鍵の設置がされているが鍵はかけないようにしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中職員は、常に入居者の方々がどこにいるか把握できる位置にいるようにしている。夜間帯は常に2F談話室にて待機している。1時間から1．5時間に1回、プライバシーに配慮しながら居室の巡回を行い、状態と安全確認を行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人一人の状態に応じた対応を心掛けている。自分で管理できる方は、はさみ・爪切り・針などを持っており自分で必要な時は、使用している。必要があれば職員のいるところで使用するように声掛けをし、見守りが出来るように心掛けている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	マニァルの確認を月1回は行うようにしている。状態の変化に応じ柔軟な対応が出来るように必要に応じて各種勉強会に参加するようにしている。	○	緊急時の対応ができるよう、看護師の指導の下取り組んで行きたい。各所勉強会に参加して行きたい。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニァルの確認を月1回は行うようにしている。緊急時には、必要な処置を行う。訪問看護師などの応援を得る。管理者への報告、指示に従い家族への連絡を行うなど適切な対応が出来るよう常に指導している。	○	常に、緊急時にはどのように対応するのか指導しているが、詳しい連絡方法や対応についてのマニュアルを早期に作成していきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練の実施なし	○	定期的な避難訓練を行なえるようにしていく。(避難経路の確認を行なう。)「運営推進会議」の委員の協力の下、地域の方々に協力していただけるような関係を築いていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	面会時等を利用して、現在の状態を話すと共にこれから考えられるリスクについての説明と対応策(ホームで出来る事)について出来るだけ積極的に話すように心掛けている。		
	(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面への支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタル測定を行い「いつもと違う」という気付きを大切にし、常に体調の変化に気をつけ、申し送りを必ずするように心掛けている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人カルテには、現在服用中の薬剤情報が綴られている。変更があったときには、職員に説明し、申し送りをしている。内服薬の説明書をよく読み理解するように努める。		常に「いつもと違う」という気付きを大切にし異常時には、訪問看護師、主治医に連絡をし相談をしたりする事で症状の変化に気を付け早期発見に努めている。主治医には、いつもと違う状態が見られた時に連携を得ている。

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	根野菜やきのこ類等のように食物繊維を多く含む食品を中心に調理メニューを立てるようにしている。又多目の水分補給や毎日運動を行なうようにして、薬に頼らないで自然な排便の取れるように取り組んでいる。	○	排便の確認が出来ない方には、トイレに入った時には必ず確認させて戴けるよう声掛けしていくと共に排便間隔や、表情・行動をは把握し、適切な誘導が出来るようにしていきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアーを大切にしている。週1回入れ歯の洗浄を行っている。自力で出来ない方には、介助を行っている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量と運動による体重管理に心掛けている。水分量が足りない方には、いろいろな水分の工夫をして、一人一人にあった好みのものにて対応をするように支援している。体重測定は月1回行なっている		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症予防マニュアルを作成し、ホーム内感染が広がらないよう職員、入居者共に手洗い、うがいの徹底を行っている。必要に応じてホーム内に張り紙などをして面会者への協力を呼び掛ける時もある。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具は、食器乾燥機を使用したり、まな板、布巾は毎日消毒をするなど清潔にしている。食材料は、なるだけその日の内に使い切るようにしている。		
	2　その人らしい暮らしを支える生活環境づくり　(1) 居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周辺には、季節の花を植えるなどして家庭的な雰囲気を出すように工夫をしている。		
81	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の方の作品を飾ったり各自手作りののれんを掛ける等に工夫している。季節の花を飾ったり、観葉植物で涼しさを演出したりしている。		
82	○共有空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでのソファーや2F談話室等、各自が思い思いの場所で自由に過ごされている。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた品々、なじみにあるものを出来るだけ持って来て戴くよう家族の方々には、常にお願いをしている。家族の写真を飾るなど少しでも居心地良く過ごせるように工夫をしている。		
84	○換気・空調の配慮 気のなるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	排泄の臭いが、充満しないように換気には、気を付け必要に応じて消臭剤を使用している。換気、加湿に気を付け、温度計を設置する事でこまめに温度調整をするようにしている。		

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1Fと2Fに居室とホール、食堂が別れている事により家庭的な生活感が送れていると思う。階段を毎日昇り降りする事によって、下肢筋力訓練が行なわれている。		個人の状態や必要に応じて、昇降機を利用している。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	混乱しやすい方や入居日数が浅い方等には、居室やトイレ等に表示をしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	三階屋上にて、野外ランチ、バーベキュー等を行なっている。		

項目番号	項　　目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
	V　サービスの成果に関する項目	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○　①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○　①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○　①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○　①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○　①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○　①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○　①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない

95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、活き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

（この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。）

「笑いが絶えないやうち」という理念を掲げている。「やうち」とは、「家族、家の者」という意味で、ハイムという家庭をみんなで頑張って築いていくことを日々取り組んでいきたいと思っている。
市街地の中に立地しているという好条件の施設である。
近所にある商店街（3番商店街、7間商店街、5番商店街など）に出掛けたり、七間朝市やシルバー人材センターが運営する”ねんりんの里”へ買物等にほぼ毎日出掛ける事が可能である。
商工会議所及び大野公民館、有終会館、図書館などの公共施設が近くにあることで、催し物やイベント、展示会に散歩や買物を兼ねて参加する事が出来る。